



特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌



119 号

2015 年 3 月 20 日発行号

第 11 回通常総会も終わりました、いよいよ春ですので、今後ともよろしくお願ひします！！
3 月は味噌づくりも上手にできました。味噌の完成が楽しみです！！
小菅村は、いろいろな動きがありました！！

「INCHのゆかいな仲間たち」は今回はお休みです。
今回は紹介記事が多い郷になりました。(事務局)

活動報告

「第 10 期ちえのわ農学校」

報告と新年度の募集内容です。

※ 新年度の募集締め切りが 3 月 31 日必着となっています。希望の方はまず一報、お問合せください！！

<2014 年度代表 小故島怜樹さん(東京学芸大学 3 回生)からのご報告です>

こんにちは。私たち「サークルちえのわ」は東京学芸大学の学生サークルです。大学内にある農園を借りて、「ちえのわ農学校」と題して毎月 1 回地域の子どもたちと食農体験活動を行っています。また INCH のキャンプにもスタッフとして参加させていただいてもらいます。今回この場をお借りして「ちえのわ農学校」のご紹介と来年度(第 11 期)の参加者の募集をさせていただきます。

【ちえのわ農学校とは】

ちえのわ農学校は、次の 3 つの“わ”を理念に、4 月から翌年 1 月までの毎月 1 回(全 10 回)活動を行っています。

- * 自然のわ: 自然の様々な表情と向き合いながら、「種から胃袋まで」の道のりを実践することで、命・自然とのつながりを五感で感じるきっかけづくりをする。
- * 人のわ: 農学校だからこそできる体験を通じて子どもたちが仲間とのつながりを感じられるきっかけづくりをする。
- * 知恵のわ: 昔ながらの知恵や文化にふれ、身近なものを見つめなおすきっかけづくりをする。

ちえのわ農学校では、お米作りや野菜の栽培を中心に様々な自然文化体験を行っています。第 10 期となる今年度は以下のようなことをしました。

第 1 回(4 月 19 日)

スタッフや他の友達との初対面。でもアイスブレイキングや農園散策をやるうちに緊張がほぐれて、帰る頃にはみんな笑顔でした。畑の活動では自分の育てる野菜を決め、種をまきました。「大きく育てて夏に収穫したら、こんなふうに食べたいなあ」といった目標も立てました。

第 2 回(5 月 17 日)

5 月はみんなで田植えをしました。田んぼに 1 列に並んで、みんなで順番に「ちえのわ米」の苗を植えていきます。はじめは泥のぬかるんだ感触が気持ち悪いけど、みんなで植えていくうちにだんだん楽しくなっていっちゃうからこれが不思議。植え終わった後は隣の田んぼで泥遊び！みんな全身泥だらけです。そのあとはドラム缶風呂に入って温まります。秋にたくさんのお米が収穫できますように。

第 3 回(6 月 14 日)

6 月は「畑のコーディネート」と銘打って、自然農薬作りと畑に立てる看板作りをしました。

「ニンニクやトウガラシを使うと虫は嫌がるらしい」—子どもたちと共に私たちスタッフも勉強になることがたくさんあります。

看板は自分が育てている野菜だけではなく、他の友達が育てている野菜も一目でわかるように区画も作りました。「ここが自分たちの畑」感が強くなったとともに、より一層育てている野菜への愛着をもつことができたのではないのでしょうか。



第 4 回(7 月 12 日)

7 月は「みんなで“涼”をつくりだそう!」ということで、竹を使って風鈴や水鉄砲、うちわを作りました。のこぎりで竹を使いやすい大きさに切ったり、錐で穴をあけたり、それぞれが試行錯誤しながら作業しました。お昼には流しそうめんを食べました。暑さを忘れて、流れてくるそうめんにみんな夢中。水遊びもして元気に農園を駆け回りました。

第 5 回(8 月 23・24 日)

8 月はキャンプ! 農園にテントを張ってみんなで 1 泊します。企画も盛りだくさん。

まずはヤマメさばき。生きたヤマメを自分の手でさばいて焼いて食べることを通して、命の大切やつながり、そして命をいただくということを学びました。

次は待ちに待った夏野菜の収穫。大きくなった自分の野菜を収穫する子どもたちの表情はとても嬉しそうでした。野菜の収穫のあとはローソク作りと蚊取り線香作り。それぞれ作りたい方に分かれて活動しました。ローソクは溶かしたロウにクレヨンで色を付けたり、それを卵の殻に流し込んだりして、自分だけのオリジナルローソクを作りました。みんなの完成したローソクを並べてみると、目にも鮮やか。とてもきれいでした。蚊取り線香は木くずと除虫菊を主な材料に作っていましたが、これがなかなか難しい。失敗から学ぶことも多い、とはよく聞きますが、こんなとき身の回りの当たり前のものを見つめなおす瞬間に出会えるような気がします。

夕食も自分たちで作りました。昼間に収穫した野菜を使って、夏野菜カレー・グリーンカレー・トマトカレーの 3 種類のカレーを作りました。調理もみんなで手分けして、協力して進めます。完成したカレーはご飯とともに一気に売り切れ。ちえのわで栽培・収穫した野菜を調理し食べることで、「種から胃袋まで」の道のりを達成することもできました。

夜はナイトハイクと影絵遊びをしました。暗闇に包まれた夜の農園はいつもとまた一味違います。

影絵遊びは、みんなでストーリーを考えました。子どもたちの協力し合う姿に、友情の深まりを感じました。

2 日目には農園の植物の葉を使って染め物をしました。葉の形の違いを生かして工夫を凝らしたり、葉によって色の出方に違いがあることを発見したりと、子どもたちひとりひとりの個性がうかがえました。

第 6 回(9 月 13 日)

9 月は冬に向けた畑の活動をしました。8 月に決めておいた担当野菜の種をまきます。春に一度やっていることもあって、子どもたちの道具の使い方や種のまき方も慣れてきました。

また 9 月は畑でとれたシソを使って、シソジュースを作りました。シソを煮出したところにクエン酸を入れると鮮やかな色に変わって、一同「おおー!」。

田んぼの様子も見に行きました。毎月ちよとずつ田んぼの様子は見ていますが、今月は田んぼに網がかけられているのをすぐさま発見。これは鳥に稲穂をつつかれないようにするためで、つまり少しずつお米ができていくという証拠。収穫までもう少し！



第 7 回(10 月 11 日)

10 月はいよいよお米の収穫です。一人一本カマを持って、稲を刈り取っていきます。刈り取って、数束ずつひもでしばってまとめ、そしてそれを干しに行くという、なんとも地道で体力の要る活動でしたが、田んぼの稲はあっという間に刈り取られ、子どもたちのパワーをまざまざと感じる瞬間でした。

稲はひと月干しておいて、来月食べられるように加工します。

また 9 月はさつまいも掘りをしました。さつまいもといえば焼き芋！ということで、収穫したさつまいもをさっそく新聞紙とアルミホイルでくるんで、たき火に入れます。あつあつの焼き芋をほおばって、収穫と秋の味覚を堪能することができました。

第 8 回(11 月 15 日)

11 月は収穫したお米を、食べられるように加工していきます。そう、脱穀と精米です。足踏み脱穀機と唐箕を使って脱穀し、精米は精米機の力を借りました。また穂を外した稲わらは細かく切り、肥料になるように田んぼにまきました。稲を余すところなく有効に使うとする昔の人の知恵や工夫を感じながら活動することができました。12 月はいよいよちえのわ米がお昼ご飯に登場します。

第 9 回(12 月 13 日)

12 月は、リースや門松を作ったり、わら工作をしたりしました。リースは植物のつるに、松ぼっくりや木の実、落ち葉を飾り付けてナチュラルリースを作りました。門松は、太い竹と細い竹のほかに葉っぱを飾り付けて、年末年始らしい作品ができました。わら工作は、ちえのわ米のわらを使って、しめ縄を作りました。午後は自分の作品を発表し合いました。子どもたちはそれぞれ、自分だけの冬を作れたのではないかと思います。

お昼は自分たちで育てたちえのわ米と、午前中に畑で収穫した野菜をふんだんに使ったご飯を食べました。夏野菜に続き、冬野菜もたくさんの収穫に恵まれました。

また 12 月はお餅つきをしました。こちらもちえのわで栽培・収穫したもち米を使いました。重い杵を持って餅をつく子どもたちの表情は、大変そうながらもとても楽しそうでした。

第 10 回(1 月 24 日)

1 月はいよいよ最終回。泣いても笑ってもこのメンバーと一緒に活動できるのはこれが最後。

まずは一年間お世話になった畑の片づけをしました。まっさらになってしまった畑に、いっそう寂しさを感じます。そして今度は一年間の活動を思い出しながら答えるクイズゲームをやりました。グループ対抗戦で、「これってこんなことしたよね」「この写真は 6 月のだよ！」と力を合わせて思い出します。ゲームは大盛り上がりで一年間を楽しく振り返ることができました。

午後は修了式を行いました。一年間の活動のスライドショーを見て、最後はみんな修了証を手に、スタッフと全員で写真を撮りました。寂しさを感じながらも、「またどこかで会いましょう」と笑顔でお別れをしました。

スタッフより

はじめは緊張した表情をみせていた子どもたちが、ちえのわ農学校でしかできない出会いや活動を通して、スタッフと、そしてほかの子どもたちと仲良くなっていくのがとてもうれしかったです。実際にちえのわの活動が「楽しい」とか「来年もまた来たい」と言ってくれた子が多く、ちえのわ農学校が子どもたちにとって、自然の“わ”や人の“わ”を感じることでできる、ひとつの居場所になれたのではないかと思います。私たちスタッフも未熟ゆえ試行錯誤の日々でしたが、その分子どもたちとの活動を通してたくさんのことを学ばせてもらいました。ちえのわ農学校を支えてくださった皆様、そして子どもたちには感謝の気持ちでいっぱいです。

【第 11 期ちえのわ農学校参加者募集】

サークルちえのわでは、平成 27 年度の参加者を募集しています！

対 象：小学 3 年生～中学 3 年生までの 14 名(応募者多数の場合抽選)

スタッフ：東京学芸大学学生を中心に 20 名程度

場 所：東京学芸大学 環境教育研究センターおよび彩色園

参加費：15,000 円(食費、保険、材料費等)

主 催：東京学芸大学「サークルちえのわ」(<http://www.gakugei-chienowa.org/>)

共 済：NPO 法人「自然文化誌研究会」(<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>)

後 援：小金井市教育委員会

○お問い合わせ

Tel: 080-6730-4869(安見)

E-mail: gakugei_chienowa@yahoo.co.jp

※お問い合わせ後、詳しい資料をお送りいたします。資料をご覧の上お申し込みをお願いします。

※お申込みの締め切りは、2015 年 3 月 31 日必着。

3/31 が申し込む方の記入した資料の必着日となっています。ご興味のある方は、サークルちえのわ担当者まですぐにお問合せください。メールとFAXなら間に合います！！

○2015 年度 年間予定

月 1 回の土曜日 (全 10 回) 10:00～16:00 (日程・内容ともに変更する可能性があります)

日程	4/18	5/16	6/13	7/11	8/22,23	9/12	10/10	11/14	12/12	1/23
活動内容	開校式、農園 散策、夏野菜 の種まき	田植え	かかし 作り	すだれ・ 風鈴作り	夏野菜料 理、ヤマメさ ばき	冬野菜 種まき	稲刈り、き なこづくり	脱穀・ 精米	もちつき、 稲わら工作	修了式
夏野菜の栽培						冬野菜の栽培				
果物の調理・保存 自然を対象にしたあそびなど										

※活動内容の中で企画が未定な部分もありますが、子どもたちのやりたいことを聞きながら今後決めていきたいと考えています。また自由時間を設定し、季節ごとの農園散策やおやつ作りなど、子どもひとりひとりの、ふと持った興味を大切にしてお応えしていきたいと考えています。

第 11 回通常総会の報告

2015.2.21

本会の活動予定を中心に密度の濃い話し合いができました。今年も多くの活動を実施していきますので、皆さまのご協力、ご参加の程よろしくお願いします。

第 11 回通常総会に関しては紙面の都合上、2015 年活動予定と 2014 年決算報告のみ掲載しました。ホームページにて、第 11 回通常総会の資料の閲覧が可能です。ご承知くださいませ。

第 11 回通常総会の報告 2015 年度 自然文化誌研究会の活動予定 ぜひご参加ください～！！

資料 2015 年度 特定非営利活動法人自然文化誌研究会 事業予定書(2015 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

月日	分類	事業	場所	備考など
2/21	総会	理事会 第 11 回通常総会	小菅村	
3/14-15	のびと	味噌づくりとそば打ち	小菅村	
4/18	共催	第 11 期ちえのわ農学校①	学芸大環境教育センター	通年講座です
4/29	デイ	野草のてんぷらとお茶つき	学芸大環境教育センター	
5/3-5	冒険	むらまつりキャンプ	小菅村	
5/4	PPM	植物と人々の博物館 展示開放	多摩源流まつりに合わせて	
5/9	PPM	雑穀栽培講習会	小菅村	
7/24-26	野人	登山道整備	甲武信小屋周辺	
7/30-8/5	冒険	こすげ冒険学校	小菅村	
8/8-9	冒険	やまめキャンプ	小菅村	
8/9-10	冒険	いわなキャンプ	小菅村	
8/8-17	野人	タイ環境学習キャンプ	タイ	
10/10-11	主催	第 35 回環境学習セミナー	小菅村	40 周年記念企画
10/11-12	主催	INCH まつり	小菅村	
11/14-15	主催	第 36 回環境学習セミナー	小菅村	伝統智研究会・ミュージーズ研究会
12/12-13	野人	星空観察会	小菅村	
12/26-28	冒険	まふゆのキャンプ	小菅村	

3/10	会報	会報ナマステ 119 号発行		350 部
6/20	会報	会報ナマステ 120 号発行		350 部
9/20	会報	会報ナマステ 121 号発行		350 部
12/10	会報	会報ナマステ 122 号発行		350 部
常時	HP	ホームページ、ブログの更新		中込ミ、黒澤

●役員:理事・監事・(新)運営委員就任:(全て敬称略)

代表理事:中込卓男 副代表理事:中込貴芳 副代表理事:小川泰彦 理事:横山緑 理事:田之下雅之
 理事:黒澤友彦(兼事務局) 理事:井村礼恵 理事:亀井雄次 理事:木下稔 監事:瀬谷勝頼 監事:雲永法
 運営委員に加わった方:宮本透、柴田一、横山昌佳

第 11 回通常総会の報告 2014 年度 自然文化誌研究会の決算報告

平成26年度 特定非営利活動にかかる事業会計収支計算書

平成26年1月1日から平成26年12月31日まで

特定非営利活動法人自然文化誌研究会

科 目	金 額 (単位:円)		
I 収入の部			
1 会費収入			
会費収入		741,000	
2 事業収入			
(1) 野外環境学習事業収入	2,355,600	4,009,329	
(2) 指導者養成事業収入	27,000		
(3) 博物館事業収入	1,626,729		
3 委託事業収入		743,181	
4 補助金等収入			
助成金収入		0	
5 寄付金収入			
寄付金収入		765,000	
6 雑収入			
当期収入合計(A)		6,258,510	
前期繰越収支差額		-650,656	
収入合計(B)			5,607,854
II 支出の部			
1 事業費			
(1) 野外環境学習事業費	1,481,048	2,565,484	
(2) 指導者養成事業費	15,301		
(3) 博物館事業支出	1,069,135		
2 一般管理費			
(1) 職員給与	1,440,000		
(2) 通信費	75,855		
(3) 事務局運営費	114,626		
燃料代	188,842		
電話代	248,583		
事務用品費	49,592		
書籍資料代	0		
印刷・製本費	0		
備品代	96,568		
3 予備費	484,753	2,214,066	
4 補助金支出		484,753	
予備費		0	
当期支出合計(C)			5,264,303
当期収支差額(A-C)			994,207
時期繰越収支差額(B-C)			343,551

活動案内

その1 のびと講座「野草の天ぷらとお茶つみの会」4.29(日曜日)

毎年恒例の「野草の天ぷらとお茶つみ」のデイキャンプをします。普段は「葉っぱ」「雑草」として見落としがちな野草でも食べられるものがたくさんあります。野草を摘んで、天ぷらにして食べましょう。また、自分たちでお茶をつみ、蒸して、揉んで、飲みましょう。樹木医の岩谷美苗さんによる「キノコ探し」もメニューに予定しています。フランス料理の高級食材「モリーユ」が見つかるかも？

雨天決行です。友人・知人を誘ってぜひご参加下さい。



日 時 : 2015 年 4 月 29 日 (祝) 9:30~15:00

場 所 : 東京学芸大学 環境教育実践施設(農場)

対 象 : どなたでもご参加ください♪

参加費 : 中学生以下:300 円 高校生以上:500 円

* 当日参加 OK です。事前申し込みは不要です。

* 雨天決行です。

* 昼食は持参をお願いします(テンプラをするのでおにぎりなど。)

* 余裕のある方は 9 時ぐらいに来て準備を手伝ってくださると嬉しいです(^^)

←農場で採れたたくさんの野草!この後、天ぷらです。

←お茶も朝からみんなで揉みます〜。

その2 冒険学校「むらまつりキャンプ」5.3~5.5(2泊3日)

新緑がまぶしい、多摩川源流の小菅村で2泊3日のキャンプを行います。清流での川遊び、焚き火、山菜採り、テント泊、ご飯づくり、五右衛門風呂、お祭りの見学などなど、多くのプログラムを準備しております。

小菅村の「第28回多摩源流まつり」も開催されます!夜は、日本一のお松焼きと、山に響きわたる花火大会も見に行きます!ご家族での参加も可能な、ゆったりとしたキャンプですよ~!!



「今日は何をしよう?」みんなで相談中。

日程 : 2015 年 5 月 3~5 日 (2泊3日)

場所 : 小菅村のいつものキャンプ場

対象 : 子どもだけの場合は小学校3年生~中学校3年生
親子参加の方は幼児・乳児もOKですよ。

宿 泊 : テント泊、ログハウスでの寝袋です。

参加費:食費・宿泊費・保険代・教材費を含みます。

①会員:子どもひとり ¥20,000 非会員 22,000 円



山菜採りで、地元の先生に教えてもらいます〜。

②会員:親子一組 ¥30,000 非会員 36,000 円

※これ以上の組み合わせの時は、ご相談いたします。

※会員になると、今回から会員料金で参加できます。

* 参加希望者は、ハガキ・もしくはE-mailに住所・氏名(ふりがな)・年齢(学年)・性別・電話番号を記入の上、4月20日(月)までに事務局までをお申し込みください。

「タイ環境学習キャンプ」旅行記 東京経済大学4年/学芸大学サークルちえのわ 柴山真さん

(前回からのつづきです)

その後もバンライでは地元の格式高いお寺に訪問したり、コウモリのたくさん出る鍾乳洞を体験したり、ビックツリーという地元の神社にあたる場所も訪問し、拝殿やおみくじもあったり木にしめ縄のようなものが巻いてあったり、日本が少し懐かしくなる感覚になりました。

最後の日の夜はこのキャンプで 1 週間、「パンダキャンプ」でお世話になりましたシリポンさんご家族と地元のカレン族の皆さんのご厚意で、最後の日の夜に音楽晩餐会を開いていただきました。今までにない豪華な料理が並ぶ中、地元カレン族の皆さんとダンくんの演奏と歌に聴き惚れました。タイでは日本の「ふるさと」のように、「満月(ドウアンペイン)」という有名な曲があります。タイ地元の民謡に感動したり、ダンくんの慣れないギターにも声援を送ったり、逆に「昂」や「手紙～拝啓十五の君へ～」をはじめ、日本の歌もプレゼントしたり…と刺激満載なひとときでしたが、カレン族の皆さんが地元の楽器を使って演奏して下さった「満月」は、どこか日本的で、どこか懐かしい響きの曲でした。タイを代表する曲のようで、タイ国民の人なら誰でも知っている歌だそうです。お酒を酌み交わしながら、楽器をいつの間にか持たされて、すっかりパンダキャンプの一因になったような気分で、いつまでも飲んで歌っていた気がします。その先の記憶は朝までありません(笑)

翌日はちゃんとログハウスの中で寝ていたのでよしとして、最後の朝ご飯を食べたらいよいよバンコクまで出発、1 週間近くお世話になったパンダキャンプともここでお別れです。咲ちゃん、ダンくん、パンダちゃん和一応子ども勢で記念写真、その後今回本当にお世話になりましたシリポンさんご家族全員と、今回の参加者の皆さんと一緒に記念撮影。そして、車に乗り込んでバンコクへ。ボタンさんとダンくん、パンダちゃんはそのままバンコクまでお見送りして下さいことに。長くお世話になったバンライを離れ、絶対に忘れられない思い出がここに生まれました。



バンコクに戻り、最初の宿泊場所であるラジャバト大学のグランドビューホテルに着きました。ここで本当にボタンさんとダンくん、パンダちゃんともお別れ。またの再会を誓い、御礼にタイの野鳥をかたどったキーホルダーをいただきました。その後は、副学長さんはじめラジャバト大学の学生さんたちと一緒に、ホテルから車で 10 分ほど移動したところにある野外レストランに行き、北部のバンライの味覚の差に若干の衝撃を受けながらも、都会のタイ料理を楽しみました。バンライと比べて染みつくような汗と暑さが体を襲ってきましたが、もう体は暑さに慣れていました。タイでの旅行も後半戦となり、辛さはバンライのときよりも増しているはずなのに平気な顔をして楽しく食べている自分があることはすごく不思議でした。

翌日からはバンコクの観光へ。週末ということもあったので、まずはウィークエンドマーケットへ車で出かけてみることにしました。出発前に国立公園からパンダキャンプへ帰ってきたところで、先にバンコクに帰っていた若林さんと合流、渋滞をかき分けながらマーケットに入りました。お土産屋や地元の物産が一同に集まっている市場になっているわけですが、3000 店舗近くあるこの市場は、地図がなければ絶対分らない迷路で、一人で行動できる時間もありつつも集合場所にたどりつけるまで一苦労でした。英語で海外初の値切りに挑戦し、タイ産のコーヒーやチャイ、お茶を購入しました。楽しく食べ歩きをしていたところ、突然のスコール。安直にも傘も持っていなかった自分は屋根を辿りながらも、集合場所に着くまでには見事にびしょびしょになりました。全員集まったところでお昼になり、市場の向かいにあるまた別の市場(地元の方が集まりそうな古めかしいところ)に行きました。思いっきり間違っただけでなく日本語の案内もあり、途中日本人の方ともすれ違うこともよくありました。ここで各自、屋台で注文してお昼となりました。オムレツのようなものを頼んだのですが、パンダキャンプのときから卵と油たっぷりの料理には変わりなかったのですが、ご飯と合わせるとすごくおいしく、辛さがとても合う料理でした。その後は、時間があまりない中でも、バンコクの観光名所であるワット・ポーと王宮へ向かうことに決め、海外旅行経験がとても豊富な永井さんご夫婦のご案内で行きました。市場からバンコク中心部は地下鉄で結ばれており、若林さんと離れ時間と戦いながらもワット・ポーへ向かいました。「ワット」はアンコール・ワットと同じようにワットは「寺」という意味で、タイの王室寺

院で涅槃の巨大仏がいることから「涅槃寺」と呼ばれています。日本の東京駅にあたる、バンコク中央駅に着いたところで地下鉄は終わり、そこからワット・ポーへとなんとかバスかタクシーを捕まえなくてはならないのですが、どこを探してもバスターミナルらしきものがない。探しても全然見つからないため、ぼったくり三輪タクシー「トゥクトゥク」に乗りました。先に行き先を伝えて、値段を軽く交渉して乗って 10 分ほどでつきました。到着したところで巨大な塔が姿を見せました。日本でいうところの五重塔が何本も建っていました。お寺の中にある涅槃仏は予想以上に大きくて、金色の色彩で彩られていました。日本だったらガラス越しや柵の向こうにあるはずの極彩色の壁画がすぐそこにありました。お寺を抜ければすぐ先はチャオプラオ川。対岸にあるお寺「ワット・アルンラーチャワラーーム」まで一瞬のクルーズ。五重塔に登り、バンコクとチャオプラオ川が一望できる場所へ。夕方に近づき、暑さが落ち着いてきたところで、もう少しクルージングで川下りしました。突然の都会の中にもお寺がひっそり建っていて、どこか日本にも似た風景があるなあと思いながらも、地下鉄とタクシーを乗り継いでなんとかホテルへ戻りました。

この日はタイでの最後の日の夕飯、タイスキをいただきました。日本のすき焼きをタイに持ち込んだからタイスキですが、日本のすき焼きとは全く異なる物でした。タイ人はタイを抜かして「スキー」と言います。日本人が来たらタイ人は必ずと言っても良いほどこれでおもてなしするそうで、タイでは有名という MK レストランヘラジャパト大学の方のご案内で足を運びました。沸いたスープの入った鍋があり、そこに激辛スープや野菜、肉団子、肉があり、すき焼きというよりは寄せ鍋に近いイメージでした。いまいちという声からお酒に合うという声まで様々でしたが、体験できたことこそ意味あるご飯でした。ここで若林さん、えいさんたちともお別れし、タイでのご案内に心からの御礼を全員でしました。翌朝はついに帰国するために朝 5 時ホテルを立ち、スワンナプーム国際空港を後にしました。



ここまでタイ環境教育キャンプについてまとめてきましたが、いかがだったでしょうか。旅行したのはもう昨年のこととなり、記憶が薄らいでしまうのではとも思いましたが、写真を見返す中であの時の思い出がふつふつと湧いてきて、懐かしくもついこの前行ってきたような思いにもなりました。海外に出て、自分の知らない世界を絶対体験していきたいと思い、今回のキャンプに参加を決め、言葉の壁に苦戦しながらも自分の五感をフル活用して、日本とは違う環境で自然の中で当たり前に見える人たちの姿を見て、エネルギーをもらい、バンコク観光以外は日本人がほとんど観光で来ないところばかり行かせてもらい、昨年の中でも一番の思い出となりました。

今度、参加するときにはシリポンさんご家族と英語でちゃんと会話ができたら、ダンクんとパンダちゃんの成長にも期待したいなと思いました。バンライの環境教育実施者のシリポンさん、ボタンさん、1 日高校入学のときにクラスでサポートしてくれたダンクんとパンダちゃん、カレン族のみなさん、タイ語翻訳と一緒に子どもたちとも交流して下さったえいさん、ホテル観察に全力を注いでいた若林さん、INCH の引率で最後までお世話になりましたごみさん、ごめさん、今回一緒の参加者でした伊藤さん、樋口さん、永井さんご家族。またお会いできることを楽しみにしております。学生最後の夏休みですが良い思い出が作れたと本当に思います。マンゴスチンや、ドリアン、バナナほか、タイでしか食べられない果物も南国最高の贅沢でした。誰よりもご飯とコミュニケーションを楽しんで、つかの間のゆっくりできるお休みもここで取れたような気がします。どのキャンプ、スタディーツアーよりも自分のやりたいことがここまで通せてしまうのはやっぱり INCH だと思いました(笑) またいつかパンダキャンプで再会できることを心から願っております。

2015 年 1 月 柴山 真

『植物と人々の博物館』 vol.16

①「第18回 雑穀栽培講習会」ご案内

古くから栽培されてきたアワ、キビなど雑穀の在来品種の種まきを実習します。教えてくださるのは地元で伝統的な雑穀栽培をしてきた方々です。雑穀見本園は、小菅の湯近辺の畑に移動します。昨年までの畑が連作で少し疲れてきましたので・・・。



雑穀を紹介しながら、種まきをみんなでしています。



●日時：2015年5月9日(土)
11:30～16:30(現地集合・解散です)

●会場：山梨県北都留郡小菅村
植物と人々の博物館および雑穀見本園

●内容：雑穀栽培実技講習 栽培概要の解説
中川智氏、岡部良雄氏(雑穀栽培後術顧問)
雑穀の種播き作業をしながら、畑作に関わる伝統的な智慧のお話を伺います。

●参加費：1,000円程度の予定

●昼食は小菅の湯で食べましょう。

●締め切り：5月8日までに事務局までご連絡。

②源流祭りにおける展示の解説・講座

5月4日は小菅村の「第28回多摩源流まつり」を開催します。当日、植物と人々の博物館(小菅村中央公民館)では、木俣美樹男先生による、縁側講座を開催し、展示の解説もしますので、ぜひお越しください。

担当：木俣美樹男(植物と人々の博物館研究員)

※当日の博物館スタッフを募集中です～！！

③「第36回環境学習セミナー」開催

現在、小菅村のミュージアム研究会で検討を進めているのが以下の2つです。

- ・「トランジション・タウン」への検討
- ・「日本で最も美しい村」連合への検討

これらについては、11月14～15日に「第36回環境学習セミナー」を予定しています。話題提供者をお招きしたセミナーを開催しますので、関心のある方はぜひご参加ください。

「トランジション・タウン」とは：トランジション・タウンとは、ピークオイルと気候変動という危機を受け、市民の創意と工夫、および地域の資源を最大限に活用しながら脱石油型社会へ移行していくための草の根運動です。パーマカルチャーおよび自然建築の講師をしていたイギリス人のロブ・ホブキンスが、2005年秋、イギリス南部デボン州の小さな町トットネスで立ち上げ、3年足らずの間にイギリス全土はもちろんのこと、欧州各国、北南米、オセアニア、そして日本と世界中に広がっています。(HPより)

「日本で最も美しい村」連合とは：

通称、美しい村連合は、2005年に7つの町村からスタートしました。当時は、いわゆる平成の大合併として市町村合併が促進され、小さくても素晴らしい地域資源や美しい景観を持つ村の存続が難しくなって来た時期にありました。私たちは、フランスの素朴な美しい村を厳選し紹介する「フランスの最も美しい村」運動に範をとり、失ったら二度と取り戻せない日本の農山漁村の景観・文化を守りつつ、最も美しい村としての自立を目指す運動をはじめました。(HPより)

『小菅村の動き』 vol.16

今年は普通の冬でした。雪は 5~6 回降るも、全て 20cm に満たず、快適な冬でした！

村では、新庁舎の完成や、道の駅のオープンを迎えます。また、村営住宅への移住者が増え、子どもたちも増えたようです。
(事務局)

①「道の駅こすげ」いよいよオープン

3 月 29 日からオープンします。オープン初日は、「第 1 回コスゲ祭(テーマ:こんにやく)」も開催。小菅村役場の新庁舎の落成式も行われるようです！

●【飲食部門】 源流の幸をふんだんに使った「源流イタリアン」レストラン:

ヤマメやイワナなどの渓流魚、ヒラタケ、ワラビ、ワサビなどの山の幸、小菅の伝統品種の富士種じゃがいもなどを使った、オリジナリティあふれる小菅ならではのイタリア料理を創作し、味わって頂くレストラン。本格的なピッツァを焼ける石窯の導入を予定しています。

なお、お持ち帰りメニューも、小菅の特産品等を活用したものを考案中です。

●【物販部門】 小菅や周辺エリアの自慢の品を紹介・販売する「まつひめ市場」:

山梨や大多摩で広く愛されてきた歴史的な人物・松姫(武田信玄の六女)をシンボルに、小菅村の特産品、野菜・山菜等を中心として、山梨(甲府、大月等)、大多摩(奥多摩、青梅、八王子等)などの広域の商品を販売するショップ。つくり手(生産者)と使い手(消費者)の交流、村民と来訪者の交流が生まれる場にもしていきたい。

●【展示部門】 小菅の自然や文化を 5 感で楽しんで頂く「源流体感ルーム」:

小菅村の村内の観光施設、温泉、イベント等に関する情報提供を行う他、小菅村を訪れた方に、源流の自然や文化の魅力を 5 感で感じて頂く体感空間。村内の NPO 等と連携して様々なプログラムを展開していきます。



電気自動車の急速充電器もあるもよう。

②小菅村役場新庁舎 完成！！

小菅村役場庁舎が 3 月 10 日に完成しました。完成に伴いまして、3 月 23 日(月)よりすべての窓口が新築の本庁舎へ移転となります。



③第 28 回多摩源流まつり

5/4 に開催です。当日は、冒険学校「むらまつりキャンプ」もやっています。山に響く花火は見ものです。夜なので、帰ってしまう人も多いので、空いてます。お笑いのナイツと U 字工事も来るようです。

④人口が増加？

この春に移住者が多く、村に 23 軒ある村営住宅(一戸建て=子どもいる家庭は家賃 15,000 円/月)は全て埋まったようです。

○ 今後の活動予定のお知らせ (2015 年春)

- 4/18 『第 11 期 ちえのわ農学校①』 @東京学芸大学 環境教育研究センター
 4/29 のびと講座『野草の天ぷらとお茶つみの会』 @東京学芸大学 環境教育研究センター
 5/3~5 冒険学校『むらまつりキャンプ』『植物と人々の博物館 展示・縁側講座』 @小菅村
 5/9 雑穀栽培講習会～雑穀の種まき @小菅村
 6/6(予定) 劇団「鮭スペアレ」の小菅村講演 @小菅村→詳細は本会HPとブログでご案内します。

※読み方は「しゃけすぺあれ」。英語表記は“SYAKE-SPEARE”。女性を中心とした劇団。団体名の由来は、イギリスの劇作家シェイクスピア(Shakespeare)をローマ字で読み、旗揚げ二人のイニシャルになぞらえてhをyと置き換えたもの。2005年、日大芸術学部演劇学科在学中の中込遊里と東海林有布によって旗揚げ。過去5回、「演劇とは贅沢な遊び・秘密のパーティー」というモットーのもと、アトリエやアートスペースでの公演を重ねた。2010年より、新たに作曲家・五十部裕明を迎え、オリジナル音楽劇の創作に変更。2013年より、古典戯曲を音楽劇として演出。富山県利賀村・岩手県など、あらゆる地域で上演を重ねる。(HPより引用)

○ 『自然文化誌研究会 冒険探検部創設 40 周年記念』について

10/10-11 に、「第 35 回環境学習セミナー」として、副題「環境学習の源流から未来へ」で企画を進めています。会場は小菅村です。そのまま、10/11-12 の「INCH まつり」につながる日程となりますので、皆さま、予定を空けておいてください！！

○ 事務局より

- 『1~2月と一転して、忙しい3月でした。一日がすごく短く感じますが、片付いた仕事の量にニンマリ。 クロ』
- 『今シーズンの冬は、薪ストーブでぬくぬくでした。人は家が暖かいと、人にもねこにもやさしくなれるのですね。素晴らしい。 はるこ』

○ 事務局の麗しき日々

- ・タケに次男が誕生したもよう。おめでとうございます！
- ・ごめさんが、教員生活の最終年度になるもよう。
- ・わだちゃんは、沖縄へ転勤なもよう。みんなで行こう！！
- ・ちーちゃんが4月から高校生になるもよう。
- ・弾は、大学院（博士）の受験なので、麻雀の誘いを断ったもよう。
- ・ちあきちゃん(大)が第1回グラブラー刃牙検定に参加したもよう。
- ・みやもっちゃんは、3月より藤野で棲息しているもよう。
- ・魚の親方が骨折で、クロは養魚場で稼ぎまくっているもよう。

○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

略称 INCH (インチ)。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、30 年以上にわたって活動を続けています。2004 年から NPO として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者のびと研修会』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。



ナマステ 119 号

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会員には以下 8 つの種類があります。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額（1～12 月）です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正会員：10,000 円 一般会員：5,000 円

学生会員：3,000 円 賛助会員（個人・団体）：10,000 円

家族会員（一家族）：6,000 円 特別維持会員：100,000 円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000 円

小菅村特別会員：1 口 1,000 円から

郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

<発行日>2015 年 3 月 20 日

<編集>自然文化誌研究会 事務局

<発行>特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

<事務局>〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL：0428-87-0165

携帯：090-3334-5328（黒澤）

E-mail：npo-inch@wine.plala.or.jp

H P：http://www2.plala.or.jp/npo-inch/

次回「ナマステ 120 号」は 5 月中旬の発行を予定しています。お楽しみに！！